

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590100772		
法人名	社会福祉法人豊生会		
事業所名	グループホームふれ愛の里牛島		
所在地	秋田市牛島東5丁目4番23号		
自己評価作成日	令和5年11月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和5年12月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念として掲げております、入居者の尊厳に配慮し、その人らしい生活への自立の支援に心がけています。ひとりひとりの生活のリズムを大切に、その人にあった役割を持っていただけるような支援に努めており、筋力低下の予防として午前午後の歩行運動や足上げ体操等も毎日実施しています。計画的に毎日行うレクリエーションや月1回の入居者と作るおやつ作り、年間の行事やイベントで入居者に楽しんでいただいております。また、町内の清掃や行事にも積極的に参加させていただいております。認知症であってもひとりひとりの役割があり、日々の生活に笑いがあり、安心して暮らしていただけることを念頭に職員一同が支援に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社歌の音楽に合わせて歩行運動することを日課として体力づくりに取り組み、一人ひとりの意思を尊重して無理なくできることをしていただき、楽しく過ごすことができるよう支援しています。地域との関わりを大切なものとして運営されており、また、ユニット会議を通じてユニット間の連携を図り、利用者へのより良い支援に繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の基本理念・基本指針を毎日朝礼で唱和し、職員全員に周知を図っている。各ユニットにも掲示しており、毎年年度初めのユニット会議で再確認している。	毎朝唱和することで意識づけを図り、日々の支援に反映できるよう取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事には職員も積極的に参加している。地域のスーパーで入居者と一緒に買い物をしたり、地域の美容室を利用している。これからは、コロナ前に受入していたボランティアも受入し、交流の機会を増やしていきたい。	運営推進会議に地域の関係者が多数参加している他、職員が町内の催しや清掃活動に参加しており、地域との関わりを大切にしています。コロナ禍で制限されていたことも今後再開し、継続したいと考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議において、入居者の症状や対応の仕方等、日頃の生活状況を説明している。また地域の方が相談に来られることもあり、相談に応じて情報提供を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所としての活動や施設内・外での意見を自由に発信していただく機会となっており、指摘された内容については話し合いの場を設け、貴重な意見を参考に実践して、サービス向上を目指している。	ホームの現状を報告し、参加者から出された意見をサービスの向上に活かすことができるよう努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護受給者である入居者担当のソーシャルワーカーとの連絡や運営推進会議には包括支援センターに参加いただき、協力関係を築いている。	更新手続きに出向いたり、相談事項にはメールで対応していただいています。今夏の豪雨災害では避難にあたっての連絡をいただく等、連携が図られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「身体拘束等の適正化の為の指針」を揚げ、3ヶ月に1回必ず研修を行い周知している。「グレーゾーン」に当てはまらないか確認しながら身体拘束をしないケアに努めている。身体拘束排除マニュアルは誰もが分かる場所に置いてある。	研修を通じて職員の理解を深めています。日々の支援の中で話し合うこともあり、身体拘束、虐待のないケアに取り組んでいます。	
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を受けている入居者もあり、今後成年後見制度の必要性も高くなっていくものと思われ、内部研修にて学ぶ機会を設けている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては疑問が残らないよう十分な説明をし、納得してから署名、押印をいただいている。契約内容が変更になった際には文書にて再度発行し、同意を得たうえで、押印をいただいている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	入居者へは職員の方から要望や希望を伺うようにしている。家族からの要望は都度職員に周知し、すぐ出来ることは行い、出来るだけ思いに添うよう改善している。	家族からはさほど意見等が出されることがないものの、会話の中で家族の思いに気づくことができるように努めています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	毎月の各ユニット会議と、2ユニット合同会議を行い、その中で職員の提案や意見を聞く機会を設けている。提案や意見は前向きに検討し、働きやすい職場作りに反映させている。	職員の意見、要望は管理者を通じて法人本部に伝えられ、反映させています。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡協議会、南西部圏域認知症ケア勉強会に参加し、意見交換やネットワーク作りを心がけている。同業者との交流する機会を設けながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で本人と家族にパンフレットや料金表、資料を元に丁寧な説明を心がけている。入居してからは入居前の生活歴を元に安心感を持っていただけるよういつもより多く声かけし、傾聴するよう努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族との面談を行い、困っていることや悩んでいる事を時間をかけて伺っている。場合によっては何度も面談し、信頼関係作りに努めている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	朝の手すり拭き掃除、モップ掛けは入居者と一緒に行っている。また、食後の食器拭き、片づけ、おしぼりたたみ、洗濯物干し等、入居者それぞれが出来る事を職員と共にし、信頼関係を築いている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	居室担当の職員が毎月の利用状況報告書にご本人の様子を記入し、日々の生活状況をお知らせしている。外出や通院は家族に協力いただき、絆を大切にしながら共にサポートしている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	家族や兄弟と電話で話したり、馴染みの美容室や通っていた医院への受診など関係性が途切れないよう家族にも協力いただき支援に努めている。	関係が希薄にならないよう家族が協力してくれることが多々あることから、コロナ発生前に行われていた墓参りや外泊等ができるよう支援したいと考えています。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	定期的に席替えをし、入居者同士馴染みの関係を作れるよう、関わり合えるように職員が見守り、時には間に入り、関係性が良くなるよう支援に努めている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御家族の相談は地域の支援と考え、相談や要望に応えられるよう環境を整え、契約終了後も気兼ねなく相談してもらえるように契約時から関係性を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン更新時やライフの更新時に入居者ひとりひとりに思いや希望をお聞きし、さらにはユニット内会議で心身状態を共有し、本人本位を大切に性格や生活スタイルに合わせた対応を心がけている。	日常会話や普段の様子から利用者の意向を把握し、連絡ノートで情報を共有しています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前情報はもとより、家族の面会時等は情報を聞き出せるようお話をさせていただいている。受け取った情報はユニットに伝え、連絡ノートに記し、情報共有に努めている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い、家族の意向も取り入れながら本人の心身に合った介護計画を作成している。変化が見られたときはその都度家族へ報告している。	定期的モニタリング、カンファレンスを行い、利用者、家族の意向が反映された介護計画を作成しています。	介護計画に基づいた記録をすることで、モニタリング、介護計画の見直しに効果的に繋げる工夫を期待します。
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は個別に記録し、特記事項があった時は会話や行動を分かりやすく記録に残している。気づきやケアの工夫は連絡ノートを活用し、職員同士確認しあい、情報を共有しながら見直しに活かしている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの訪問、町内行事への参加、移動図書館の利用、近隣への個別の買い物支援を行っていたが、コロナの為、まだ行えていない状況で、終息時期を見て再開したいと思っている。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を尊重しており、受診時は家族の付き添いの協力をいただき、本人の状態は報告書を作成し、病院との連携を図っている。また、主治医、かかりつけ薬局からの指示や助言は受診記録に記載し、職員間で周知している。	入居前の医療機関で引き続き受診しています。家族に通院介助をお願いしていますが、送迎の依頼には応じています。また、受診後の情報は共有しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制の中で訪問看護が毎週1回定期訪問にて個々の健康管理を行い、いつでも連絡、相談ができ、必要時には処置のため来所される。主治医への連絡や、連携体制が整っている。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の医療機関へ入院時情報提供書を作成し情報提供をしている。入院中の状況など、細かく把握できるよう、家族や相談員、病棟の看護師とも情報交換し、早期に退院できるよう関係作りをしている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取り介護の体制の説明を行っている。重度化対応、終末期ケア対応指針の説明も契約時に行い、今後の入居者の終末期を家族と一緒に考え、意向を伺う時間を作っている。	本人、家族の意向に添い、ホームでの看取りに対応しています。看取り後の職員のメンタルケアにも配慮しています。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを職員間で周知している。緊急時の対応については内部研修にて学び、応急手当等の初期対応の実践力を身に付けている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回、火災や地震の避難訓練を行っている。水害時の避難訓練では、避難先の変更にて避難誘導の確認訓練を行った。運営推進会議にて避難時の協力を求めた。	今夏の豪雨災害では避難には至らなかったものの、運営推進会議でその対応を話し合っています。ヘルメット、食料等を準備しており、冬季には建物周囲の除雪を行っています。	利用者、職員の安全な避難に繋げるために、協力してくれる方の具体的な支援方法を話し合うと共に、隣接する事業所とも対策を検討されることを期待します。

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりの個性を尊重し、尊厳を守ること を基本指針に掲げており、特に義歯洗浄 や排泄誘導には配慮し、人生の先輩として 敬う気持ちを込め、接している。	利用者の気持ちに配慮した声かけの仕方で 接するように、管理者が折に触れて職員に話 し、注意喚起しています。異性介助につい ても配慮しています。
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	衣類の選択は入居者と行い、朝の整髪、洗 面の促しや介助を行っている。散髪や髪染 めの希望があった場合は訪問美容の手配 をし、支援している。	
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	春には一緒に苗を植え、成長を楽しみなが ら一緒に収穫している。季節にあったメ ニューや行事食で食事を楽しんでいただくよ う工夫している。食材を切ったり、盛りつけし たり、片づけ、食器拭きを一緒に行ってい る。	野菜を植えたり、だまこやお菓子づくり等、一 緒にできることを企画して食への関心に繋げ ています。外にテーブルを出して昼食を摂る こともあり、食事を楽しむ工夫をしています。
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態 や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事の摂取量、体重の増減を記録し 把握している。ひとりひとりの既往歴を考慮 し食事を提供しており、減塩にはスプレー式 のお醤油、水分が摂れない場合は、補助食 品やお茶ゼリーで対応してる。	
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	食後は必ず本人にブラッシングしていただ くよう声かけし、行っている。磨き残しがある 入居者は本人のブラッシング後、職員が介 助している。	
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとり の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレで の排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	タブレットの排泄記録を確認しながら、個々 の排泄パターンの把握に努めている。その 中でトイレ誘導を行ったり、日中失禁の少な い入居者は綿パンツに尿取りパットへと変 更をしたり、自立に向けた支援を心がけてい る。	チェック表を活用し、トイレで排泄できるよ う個々のパターンに合わせて支援しており、排 泄用品の使用減にも取り組んでいます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、野菜ジュースや牛乳ヨーグルト等の乳製品を提供し、体操や水分補給にて便秘予防に努めている。毎日排便の有無を確認し、状況に応じて訪問看護や医師に相談、指示を仰いでいる。		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は一応決めているが、健康状態や本人の希望を考慮し、臨機応変に対応している。週3日入浴希望あり、入浴されている方もいる。菖蒲湯や冬至のゆず湯など、季節のお湯も楽しんでいただいている。	週2回の支援が行われ、全員湯舟に浸かって入浴できています。強く拒否する方もなく、スムーズな入浴に繋がっています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間や就寝時間はひとりひとりに合わせて対応している。また、日中も自由に休息していただいたり、寝具類は自身の馴染みの物を持ってきていただき、温度調整に注意しながら、快適に過ごされるよう支援している。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受薬したときは必ず受診記録を作成し、新しく処方されたお薬の情報も記載し情報の共有を図っている。薬の変更時には1週間ほど状態の観察をし、変化が見られたときは主治医に報告している。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で洗濯物干し、洗濯物たたみ、食器洗い、食器拭き、掃除、裁縫、編み物、塗り絵、そろばん計算など、ひとりひとりにあった役割や外への散歩など、楽しみに繋がる支援を行っている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の「外に行きたい」との要望には必ず応え、花見や紅葉ドライブにも出かけ気分転換してもらっている。コロナが終息したときはもっと地域に出て行きたいと思っている。	利用者の希望に応じて外出している他、プランターで野菜を育て、収穫までの一連の作業を職員と一緒にっており、外で活動できることで気分転換が図られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人の方針により、預り金は廃止となり、お金を所持することは無くなったが、無いことで不安になる入居者には少額持っていたいしている。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下の室温は適温になるよう、湿度は50%を切らないよう配慮している。リビングには季節の花を生けたり、皆で季節ごとに創作した物を飾り、季節を感じられるよう工夫している。	利用者に手伝っていただきながら一緒に掃除し、温湿度管理をして清潔、快適に過ごせるよう努めています。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブル席をひとりひとり決めており、その方の居場所となっている。また、テレビの前のソファーには入居者同士座られたり、一人で座って新聞を読んだり、思い思いに過ごされている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の好みの衣類、馴染みの家具、いつも使っていた物を持ってきていただき、居心地良く、安心出来る環境作りに努めている。	安心して過ごすことができるよう、馴染みの物の持参を勧めています。家族の写真を飾ったりしてそれぞれの生活の場がつけられています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が一人で自室に戻れるように自室の扉の所に大きく名前を貼り、迷わないような工夫をしている。施設内は各所手すりがあり、バリアフリーになっている。		